



KOBELCO
神戸製鋼グループ

2016年度決算

2017年4月28日

**代表取締役会長兼社長
川崎 博也**





報告事項

1. 2016年度決算
2. 2017年度業績見通し
3. 財務戦略
4. 参考情報



1. 2016年度決算



ECO WAY

2016年度 実績

(単位：億円)

	2015年度	2016年度		差異	
	実績 ①	2月公表 ②	実績 ③	対前年 ③ - ①	対2月 ③ - ②
売上高	18,228	16,900	16,958	△1,269	+ 58
営業損益	684	50	97	△586	+ 47
経常損益	289	△300	△ 191	△480	+ 109
(在庫評価影響を除く)	(469)	(△295)	(△ 156)	(△625)	(+ 139)
特別損益	△395	0	81	+ 476	+ 81
親会社株主に帰属する 当期純損益	△215	△400	△ 230	△14	+ 170



ECO WAY

2016年度 セグメント別 売上高

(単位：億円)

売上高	2015年度	2016年度		差異	
	実績 ①	2月公表 ②	実績 ③	対前年 ③－①	対2月 ③－②
鉄 鋼	6,658	6,150	6,206	△451	+56
溶 接	922	810	822	△99	+12
アルミ・銅	3,454	3,200	3,233	△221	+33
機 械	1,590	1,530	1,507	△82	△23
エンジニアリング	1,317	1,230	1,211	△105	△19
建設機械	3,362	3,000	3,104	△257	+104
電 力	767	720	706	△61	△14
そ の 他	745	750	748	+3	△2
調 整 額	△589	△490	△ 582	+7	△92
合 計	18,228	16,900	16,958	△1,269	+58



ECOWAY

2016年度 セグメント別 経常損益

(単位：億円)

経常損益	2015年度	2016年度		差異	
	実績 ①	2月公表 ②	実績 ③	対前年 ③－①	対2月 ③－②
鉄鋼	△149	△300	△ 295	△145	+5
溶接	81	65	68	△12	+3
アルミ・銅	151	110	120	△31	+10
機械	67	50	58	△8	+8
エンジニアリング	46	10	28	△18	+18
建設機械	△119	△340	△ 313	△194	+27
電力	174	135	130	△43	△5
その他	73	70	76	+2	+6
調整額	△36	△100	△ 64	△27	+36
合計	289	△300	△ 191	△480	+109



2. 2017年度業績見通し



ECOWAY

2017年度 業績見通し

(単位：億円)

	2016年度			2017年度			差異
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前年 ②－①
売上高	8,151	8,807	16,958	9,300	9,400	18,700	+1,742
営業損益	309	△212	97	350	400	750	+653
経常損益	123	△314	△191	200	300	500	+691
(在庫評価影響を除く)	(238)	(△394)	(△156)	(145)	(360)	(505)	(+661)
特別損益	0	81	81	0	0	0	△81
親会社株主に帰属する 当期純損益	41	△271	△230	150	150	300	+530



ECOWAY

2017年度 セグメント別 売上高

(単位：億円)

売上高	2016年度			2017年度			差異 対前年 ②－①
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	
鉄 鋼	2,903	3,302	6,206	3,550	3,400	6,950	+744
溶 接	422	399	822	380	390	770	△52
アルミ・銅	1,629	1,603	3,233	1,750	1,700	3,450	+217
機 械	720	787	1,507	800	940	1,740	+233
エンジニアリング	495	715	1,211	540	800	1,340	+129
建設機械	1,561	1,543	3,104	1,800	1,550	3,350	+246
電 力	355	350	706	320	390	710	+4
そ の 他	312	435	748	330	430	760	+12
調 整 額	△250	△332	△582	△ 170	△ 200	△ 370	+212
合 計	8,151	8,807	16,958	9,300	9,400	18,700	+1,742



ECO WAY

2017年度 セグメント別 経常損益

(単位：億円)

経常損益	2016年度			2017年度			差異
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前年 ② - ①
鉄鋼	△98	△197	△295	100	50	150	+445
溶接	38	30	68	20	30	50	△18
アルミ・銅	65	54	120	80	70	150	+30
機械	37	21	58	10	40	50	△8
エンジニアリング	0	27	28	△15	45	30	+2
建設機械	△5	△308	△313	65	25	90	+403
電力	83	47	130	0	30	30	△100
その他	20	55	76	15	35	50	△26
調整額	△18	△46	△64	△75	△25	△100	△36
合計	123	△314	△191	200	300	500	+691



ECOWAY

【鉄鋼】

(単位：億円)

	2016年度			2017年度			差異
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	年度 ②－①
売上高	2,903	3,302	6,206	3,550	3,400	6,950	+744
経常損益	△98	△197	△295	100	50	150	+445
(内 在庫評価影響)	(△75)	(95)	(20)	(45)	(△65)	(△20)	(△40)

2017年度の状況

- 鋼材販売数量は、自動車、国内建設向けを中心に堅調な需要が見込まれることから前年度を上回る見込み。
- 昨年秋に実施した加古川製鉄所の高炉改修影響が無くなることに加え、メタルスプレッドの改善や、中期経営計画より計画する収益改善策を含めたコストダウンを確実に実行することで黒字転換を図る。（鉄鋼の損益増減要因については次頁を参照）
- 加古川製鉄所への上工程集約に向けた取り組みも、関連設備の立ち上げなど計画通り進捗中であり本年11月に完遂予定。



ECO WAY

【鉄鋼】 収益力強化

(億円)

16年度⇒17年度:主なコスト変化要因

3高炉改修影響	+ 120	合計 <u>+ 260億円</u>
上工程集約効果	+ 65	
追加収益改善策	+ 90	
その他	△ 15	

製鉄所上工程の集約

(収益改善効果 + 150億円/年)

関連設備の立ち上げなど計画通り進捗中。本年11月に完遂予定。

2017年度 + 65 (見込)

2018年度 + 150 (計画)

※対2015年度比

追加収益改善策

(収益改善効果 + 300億円/年)

設備投資や生産現場レベルでのコスト削減、原料調達コスト削減により、順調に進捗。

2016年度 + 85 (実績)) + 90
2017年度 + 175 (見込)

2020年度 + 300 (計画)

※対2015年度比

2016年度

△ 295

+ 225

在庫評価
影響

△ 40

2017年度

150

+ 230

総コスト
削減

その他
+ 30

メタルスプレッド 及び数量構成

生産・出荷	△ 195
原料価格	△ 120
為替影響	+ 10

在庫評価
影響

△ 305

+ 165

総コスト

△ 25

+ 20

15年度⇒16年度:主なコスト変化要因

3高炉改修影響	△ 120	△ 160
上工程集約影響	△ 40	
追加収益改善策	+ 85	合計 <u>△ 5億円</u>
その他 (子会社等)	+ 70	

メタルスプレッド 及び数量構成

生産・出荷	+ 660
原料価格	△ 390
為替影響	△ 45



ECOWAY

【鉄鋼】生産・販売状況

	2015年度			2016年度			2017年度 (見通し)
	上期	下期	年度	上期	下期	年度	年度
全国粗鋼 (万t)	5,206	5,217	10,423	5,255	5,261	10,516	/
全国在庫水準 (万t)	579	550	--	561	565	2月末	
薄板3品在庫水準 (万t)	421	411	--	397	388	2月末	
国内自動車生産台数 (万台)	445	474	919	441	484	925	

<当社>

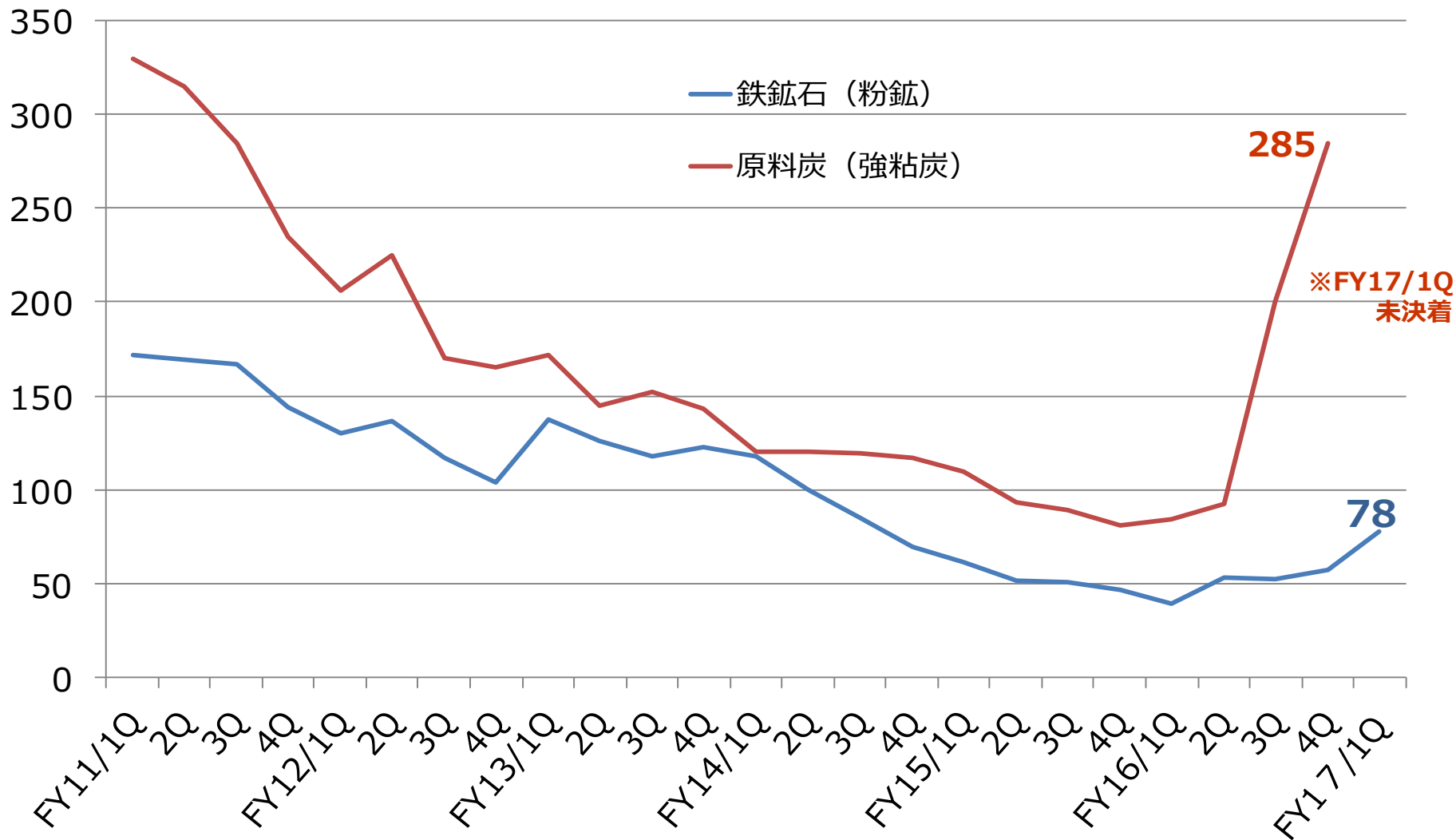
粗鋼生産 (万t)	367	381	748	384	337	721	760程度
鋼材販売量 (万t)	297	303	600	292	301	593	615程度
(内国内)	(197)	(211)	(408)	(202)	(216)	(419)	
(内海外)	(100)	(92)	(192)	(90)	(84)	(174)	
鋼材販売単価 (千円/t)	78.7	71.8	75.2	68.0	73.1	70.6	
鋼材輸出比率 (金額ベース)	34.2%	30.0%	32.2%	29.5%	27.7%	28.6%	



ECO WAY

【鉄鋼】鉄鉱石と原料炭 価格推移

(単位：\$/トン)



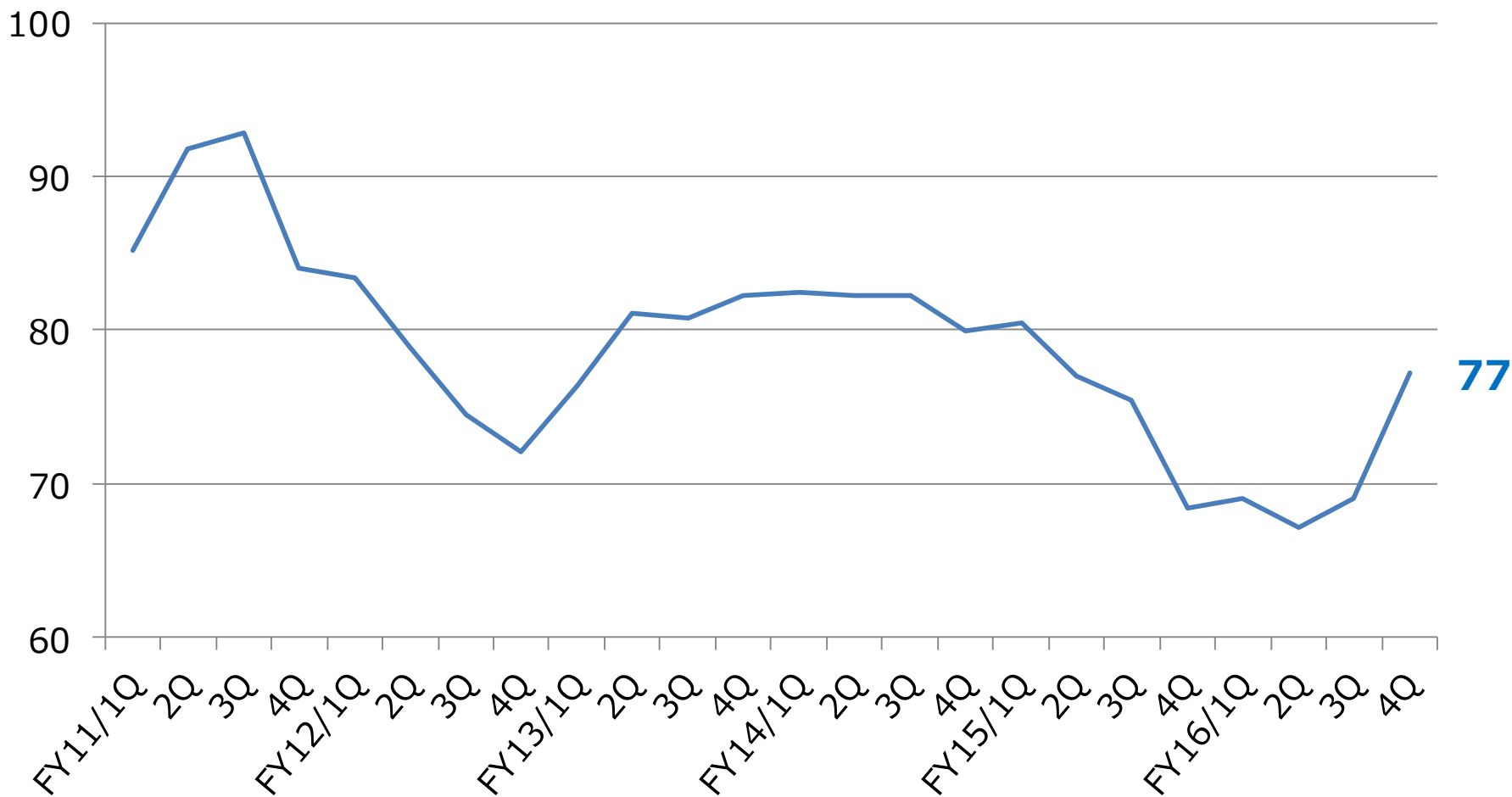
※FY17/1Q
未決着



ECO WAY

【鉄鋼】鋼材単価の推移

(単位：千円/トン)





ECO WAY

【溶接】

(単位：億円)

	2016年度			2017年度			差異 年度 ②－①
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	
売上高	422	399	822	380	390	770	△52
経常損益	38	30	68	20	30	50	△18

<当社の販売状況（溶接材料）>

(単位：千t)

	2016年度			2017年度
	上期	下期	年度	見通し
国内	62	63	125	290程度
海外	89	83	172	
合計	151	146	297	

2017年度の状況

- 溶接材料は海外を中心とする造船向けの需要が減少傾向。溶接システムも、自動化に対する投資が旺盛であった国内の建築鉄骨向けの需要が一巡する見込み。販売価格の見直しやコストダウンなどの収益改善を織込むものの減益を見込む。



ECO WAY

【アルミ・銅】

(単位：億円)

	2016年度			2017年度			差異 年度 ② - ①
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	
売上高	1,629	1,603	3,233	1,750	1,700	3,450	+217
経常損益	65	54	120	80	70	150	+30
(内 在庫評価影響)	(△40)	(△15)	(△55)	(10)	(5)	(15)	(+70)

<当社の販売状況>

(単位：千t)

	2016年度			2017年度
	上期	下期	年度	見通し
アルミ圧延品 国内	155	136	291	295程度
輸出	31	36	68	85程度
銅圧延品	71	72	143	143程度

2017年度の状況

- 自動車用向けを中心とする旺盛なアルミ圧延品需要を背景に、設備増強・新設に伴う固定費等の増加を見込む一方、アルミ圧延品、銅圧延品の販売数量増やコスト削減に加え、アルミ・銅地金の市況回復による在庫評価益などにより増益を見込む。



ECO WAY

【機械】

(単位：億円)

	2016年度			2017年度			差異
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	年度 ② - ①
売上高	720	787	1,507	800	940	1,740	+233
経常損益	37	21	58	10	40	50	△8
受注高	558	724	1,282	—	—	1,400程度	+120程度

2017年度の状況

- コスト低減による競争力強化やアフターサービス事業の拡大などに取り組むことで受注高アップを目指す一方、依然続くエネルギー関連需要の停滞、競争激化による採算低下などから減益を見込む。



ECO WAY

【エンジニアリング】

(単位：億円)

	2016年度			2017年度			差異 年度 ② - ①
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	
売上高	495	715	1,211	540	800	1,340	+129
経常損益	0	27	28	△15	45	30	+2
受注高	806	936	1,742	—	—	1,000程度	△740程度

2017年度の状況

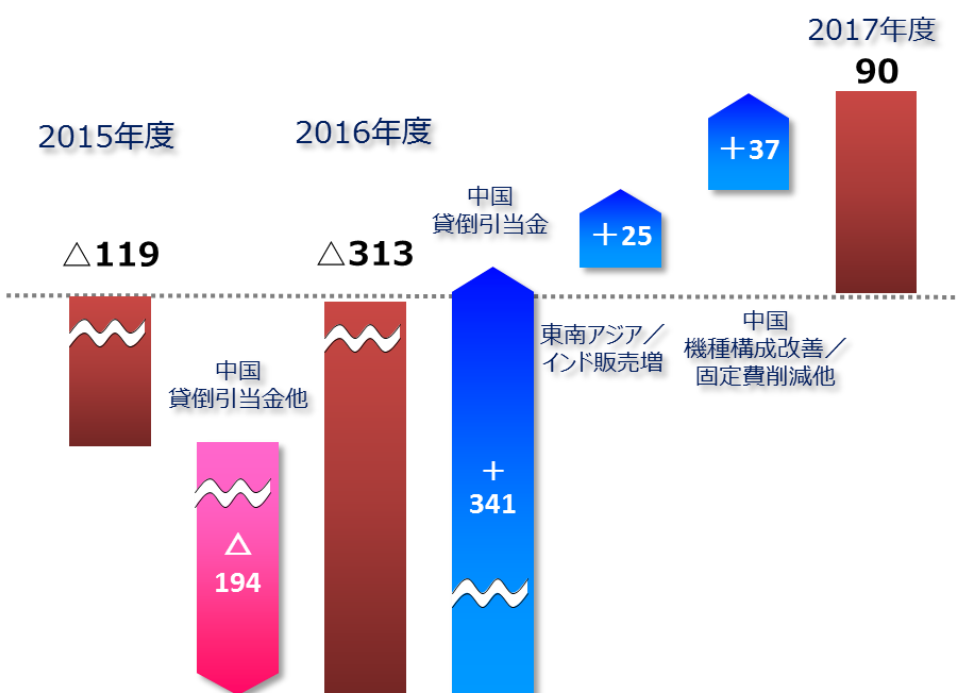
- 廃棄物処理関連事業において複数の大型案件を受注した前年度に比べ受注高は減少する一方、既受注案件の進捗等により前年度並みの損益を見込む。



ECO WAY

【建設機械】

	2016年度			2017年度			差異 (単位：億円)
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	
売上高	1,561	1,543	3,104	1,800	1,550	3,350	+246
経常損益	△5	△308	△313	65	25	90	+403
(中国の引当金計上額)	(33)	(308)	(341)	(0)	(0)	(0)	(△341)


2017年度の状況

- 2017年度は中国ショベル事業に係る追加の引当金計上を現時点では想定していない。引き続き債権管理重視の販売方針を継続するが、機種構成改善などで中国ショベル事業の黒字化を図る。
(17年度中国外資需要想定：34千台)
- 東南アジア、インドなどにおいてインフラ投資や資源分野での需要回復が見込まれ、グローバルでのショベル販売台数は前年度を上回ると想定。



ECO WAY

【電力】

(単位：億円)

	2016年度			2017年度			差異
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	年度 ② - ①
売上高	355	350	706	320	390	710	+4
経常損益	83	47	130	0	30	30	△100

2017年度の状況

- 神戸1,2号機は引き続き安定操業を継続する一方、1号機の新契約への移行や新規プロジェクトの先行費用などから一時的な減益を見込む。
(電力セグメントの中長期的な業績イメージはP.41を参照)



ECOWAY

(余 白)



3. 財務戦略



ECO WAY

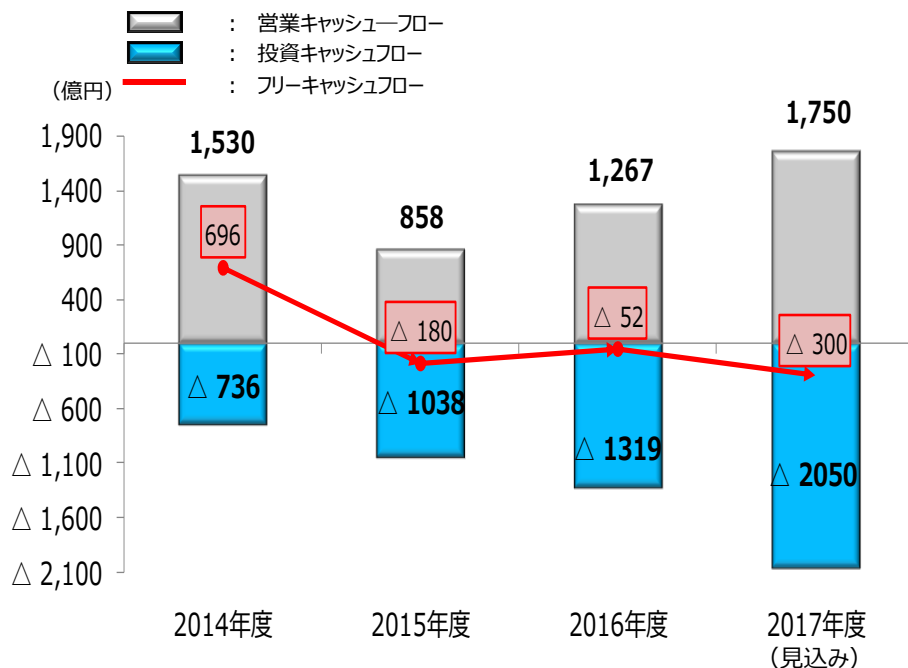
【財務戦略】

基本方針

- 素材系・機械系事業の成長に向けた大型戦略投資、及び事業基盤を支える定常投資は、原則として事業キャッシュフローにて賄う

➤ **D/Eレシオ 1倍以下を堅持**

《フリーキャッシュフロー》

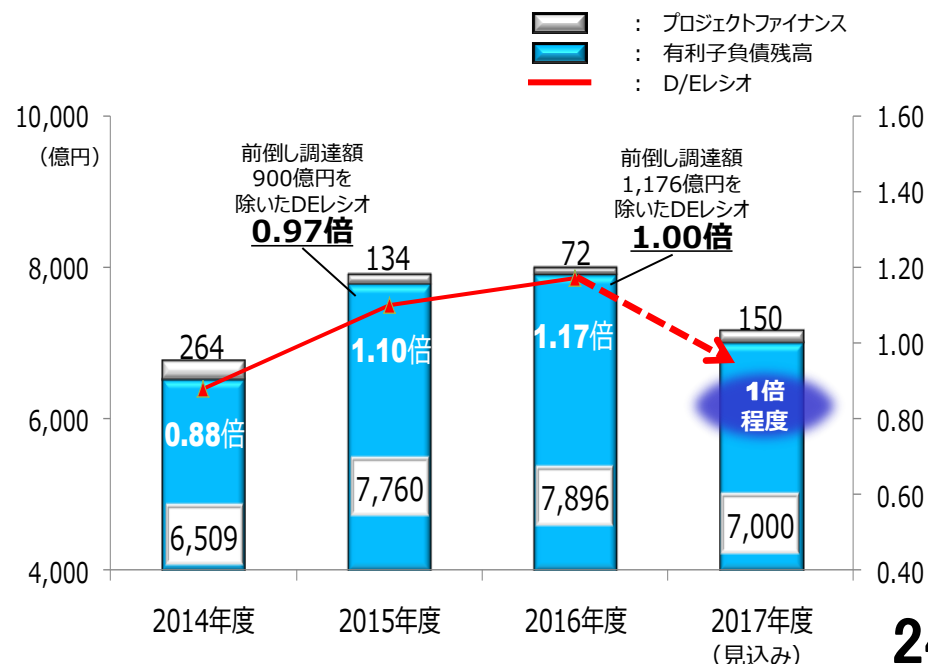


キャッシュ対策

- 財務規律を維持しながら着実に成長投資を実施すべく、**1,000億円規模のキャッシュ対策**を検討・実施

※16年度以降に既に実施したキャッシュ対策：
 運転資金改善190億円、資産売却80億円等

《有利子負債残高・D/Eレシオ》





4. 参考情報



ECOWAY

【フリーキャッシュフロー】

(単位：億円)

	2016年度			2017年度			差異 年度 ②-①
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	
営業キャッシュフロー	741	526	1,267	1,250	500	1,750	+483
投資キャッシュフロー	△610	△709	△1,319	△1,400	△650	△2,050	△731
プロジェクトファイナンス除く フリーキャッシュフロー	131	△183	△52	△150	△150	△300	△248
プロジェクト外ファイナンス含む フリーキャッシュフロー	165	△126	39	△150	△200	△350	△389
プロジェクトファイナンス除く 現金残高	2,136	※1 1,970		1,550	650		△1,320

※1：2017年度分借入金の前倒し調達（1,176億円）含む



ECO WAY

【設備投資の状況】

(単位：億円)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
設備投資<計上>	1,035	1,099	1,602	1,350
対減価償却費	115%	116%	167%	129%

設備投資<支払い>	953	991	1,389	1,500
対減価償却費	106%	105%	144%	143%

減価償却費	898	948	962	1,050
-------	-----	-----	------------	--------------



ECOWAY

【財務指標】

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
R O S ※1	5.4%	1.6%	△1.1%	2.7%
1株あたり当期純利益 ※2	238.19円	△59.34円	△63.54円	82.81円
D / E レシオ ※3	0.88倍	※4 1.10倍	※5 1.17倍	1倍程度
R O A ※6	4.4%	1.3%	△0.8%	※8 2.2%
R O E ※7	12.0%	△2.9%	△3.4%	※8 4.3%

※1：売上高経常利益率

※2：当社は2016年10月1日を効力発生日として、10株を1株に併合する株式併合を実施。
2015年度以前も株式併合を前提として算定

※3：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本（15年度は株主資本）

※4：2016年度分借入金の前倒し調達（900億円）含む
前倒し調達除く2015年度D/Eレシオ：0.97倍

※5：2017年度分借入金の前倒し調達（1,176億円）含む
前倒し調達除く2016年度D/Eレシオ：1.00倍

※6：経常損益/総資産

※7：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本

※8：利益は年率換算



ECO WAY

全社 差異内訳 (2015年度⇒2016年度)

(単位：億円)

	2015年度			2016年度		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	330	△41	289	123	△314	△191

△ 480

増益要因		減益要因	
鉄鋼在庫評価影響	+ 165	生産・出荷	△ 195
鉄鋼為替影響	+ 10	原料価格	△ 120
		総コスト	△ 45
		アルミ・銅在庫評価影響	△ 20
		連結子会社・持分法	△ 225
		その他	△ 50
合計	+ 175	合計	△ 655



ECO WAY

鉄鋼 差異内訳 (2015年度⇒2016年度)

(単位：億円)

	2015年度			2016年度		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	△12	△137	△149	△98	△197	△295

△ 145

増益要因		減益要因	
在庫評価影響	+ 165	生産・出荷	△ 195
為替影響	+ 10	原料価格	△ 120
その他	+ 20	総コスト	△ 25
合計	+ 195	合計	△ 340



ECO WAY

全社 差異内訳 (2016年度 2月公表 ⇒ 実績)

(単位：億円)

	2016年度 (2月公表)			2016年度 (実績)		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	123	△423	△300	123	△314	△191

+ 109

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+ 10	鉄鋼在庫評価影響	△ 20
原料価格	+ 10	アルミ・銅在庫評価影響	△ 10
総コスト削減	+ 10		
連結子会社・持分法	+ 80		
鉄鋼為替影響	± 0		
その他	+ 29		
合計	+ 139	合計	△ 30



ECO WAY

鉄鋼 差異内訳 (2016年度 2月公表 ⇒ 実績)

(単位：億円)

	2016年度 (2月公表)			2016年度 (実績)		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	△98	△202	△300	△98	△197	△295

+ 5

増益要因			減益要因		
生産・出荷	+	10	総コスト	△	5
原料価格 為替影響	+	10	在庫評価影響	△	20
その他	+	10			
合計	+	30	合計	△	25



ECO WAY

全社 差異内訳 (2016年度 ⇒ 2017年度)

(単位：億円)

	2016年度			2017年度		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	123	△314	△191	200	300	500

+ 691

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+ 685	原料価格	△ 390
総コスト削減	+ 200	鉄鋼在庫評価影響	△ 40
アルミ・銅在庫評価影響	+ 70	鉄鋼為替影響	△ 45
持分子会社・持分法	+ 245	その他	△ 34
	+ 1,200	合計	△ 509



ECO WAY

鉄鋼 差異内訳 (2016年度 ⇒ 2017年度)

(単位：億円)

	2016年度			2017年度		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	△98	△197	△295	100	50	150

+ 445

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+ 660	原料価格	△ 390
総コスト削減	+ 230	在庫評価影響	△ 40
その他	+ 30	為替影響	△ 45
合計	+ 920	合計	△ 475



ECO WAY

(余 白)



ECO WAY

【3本柱の事業成長戦略】中期計画の進捗状況

素材

- | | | |
|-----------|---|-------------|
| I | 輸送機軽量化への取組み
自動車軽量化戦略を加速 | P.37 |
| II | 鉄鋼事業の収益力強化
加古川製鉄所への上工程設備集約に向け予定通り進捗追加収益改善策を順調に実行中 | P.12 |

機械

- | | | |
|-----------|--|-------------|
| I | エネルギー・インフラ分野への取組み
機械事業拡大に向け順調に進捗 | P.38 |
| II | 建設機械事業の収益力強化
中国ショベル事業再構築を推進 | P.39 |

電力

- | | |
|---|-------------|
| 電力供給事業の安定収益化への取組み
神戸1,2号機の延長契約締結
新規プロジェクト（真岡、神戸3,4号機）を予定通り推進 | P.41 |
|---|-------------|



ECO WAY

【素材】 輸送機軽量化への取組み – 自動車軽量化戦略 –

新組織の設立(2017年4月1日付)

- 技術開発本部内に「自動車ソリューションセンター」を新設。自動車軽量化に貢献する素材拡販に向けて幅広いソリューション提案力を強化する。
- 同時に、経営企画部内に「自動車軽量化事業企画室」を新設。マクロ動向・技術、顧客動向を集約した上での戦略立案に加え、戦略実行のためのグループ経営資源の最適配分などを企画。
- 以上の組織を所管する全社自動車プロジェクト担当役員を新たに配置。意思決定の迅速化を図るとともに全社横断での自動車軽量化戦略を推進する。

1,000億円規模の戦略投資について、早期具体化に向け検討中

- 競争力の源泉となる国内マザー工場強化
- 海外市場での成長取込み

既に以下2件意思決定済み
その他、継続して検討中



2016年5月9日発表

米国におけるアルミ押出・加工品の製造・販売会社の設立 (Kobelco Aluminum Products & Extrusions Inc.)

- 総投資額 約50億円
- 生産能力 6千トン/年
- 予定

2016年8月 建設開始

2017年後半 加工工程稼働開始

2018年後半 溶解・押出工程稼働開始

- 日・米両極でのアルミ押出・加工品（バンパー材、骨格材など）の供給体制を確立



2017年4月28日発表

米国自動車サスペンション用アルミ鍛造工場生産設備の増強 (Kobelco Aluminum Automotive Products, LLC)

- 投資額 約58億円
- 生産能力 54万本/月→97万本/月
- 予定

2017年夏頃 2015年意志決定増強設備、順次稼働予定

2018年秋以降 2017年今回意志決定増強設備、稼働開始予定

- 北米アルミ鍛造サスペンション市場トップの地位を盤石に





ECO WAY

【機械】 エネルギー・インフラ分野への取組み

米国定置式水素ステーション向け 「HyACmini-A」販売開始

2017年2月

米国定置式水素ステーション向けAll in oneコンパクトパッケージ「HyACmini-A」の販売を開始

- ◆ 国内向け「HyACmini」設置面積比10%減
- ◆ (株) タツノ製ディスペンサーとのセット販売により、水素の圧縮からFCVへの充填まで可能



顧客の手配手間、現地調整作業を軽減

スウェーデン Quintus社を買収

2017年4月

IP装置市場世界トップメーカー Quintus Technologies ABを買収

航空機部品や発電用タービンブレード、半導体関連素材など高機能製品に幅広く適用される等方圧加圧装置（IP装置）のトップメーカー。航空宇宙分野を中心に、欧州・米国で圧倒的なプレゼンスを発揮。

**産業機械事業の高収益化に向け
安定収益基盤となるメニューを強化**

新領域：大型機市場参入向け 世界最大級試運転設備完成

2017年4月

非汎用圧縮機用 大型試運転設備完成

世界最大級となる40MW可変速モータを使用した試運転が可能となり、大型ターボ圧縮機市場への参入条件が整う。



**特に、当社優位性のある
アジア市場の取り込みに注力**



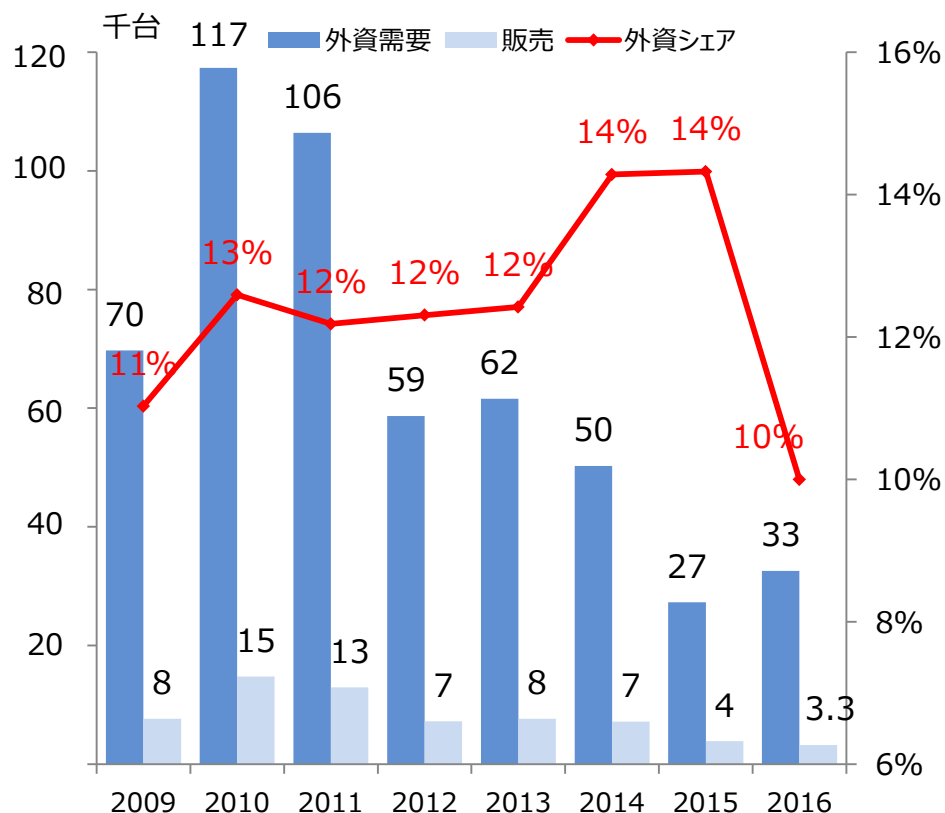
ECO WAY

【機械】 建設機械事業の収益力強化 – 中国事業の取り組み –

1. 2016年度の状況

- ✓ 2016年度の販売台数は前回想定並の3,264台。債権回収を優先したことから、シェアは前年度を下回る。
- ✓ 2016年度第4四半期における引当金の追加計上はない。

■ 中国の外資需要、当社販売台数、外資の中でのシェア



■ 2016年の引当状況

(単位:億元/億円)

代理店区分	2016年度末				
	合計	債権残高		引当金	
		売掛金	立替金	残高	率
取引先	21	13	8	13	78%
取引停止先	15	3	12	15	
合計	36	16	20	28	
(日本円)	(606)	(262)	(344)	(472)	

代理店区分	2016年度末			
	偶発債務 残高	引当金		
		残高	率	
取引先	25	3	15%	
取引停止先	1	1		
合計	26	4		
(日本円)	(436)	(70)		



ECO WAY

【機械】 建設機械事業の収益力強化 – 中国事業の取り組み –

2. 中国事業の再構築

(1) 資本関係の見直し

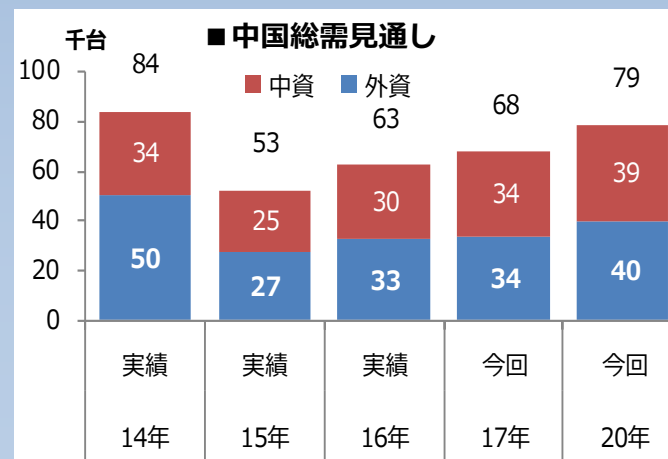
- ✓ 当初の計画通り2017年3月末に合併解消の最終契約を締結。
- ✓ 2015年度決算で計上した四川成工への融資に対する引当金の戻入益81億円を、特別損益として2016年度第4四半期に計上。

(2) 販売・生産体制の見直し

- ✓ 代理店の体質強化を目的に絞込みを実施。
- ✓ 代理店管理、債権管理強化を目的に「財務・債権管理本部」を新設（2017年4月）
- ✓ 中国国内向け生産を成都（CKCM）へ集約し、杭州（HKCM）は、完成機輸出及び製缶品の供給拠点として位置付け（2018年度集約）

(3) 2017年度概況

- ✓ 中国国内において一定のインフラ投資が維持され、ショベル需要が回復する一方、当社は債権管理重視の販売方針を継続することから、16年度並の販売台数を計画する。
- ✓ 新たな債権管理、販売体制の下、中国事業の再構築を図り、17年度の中国事業黒字化を見込む。



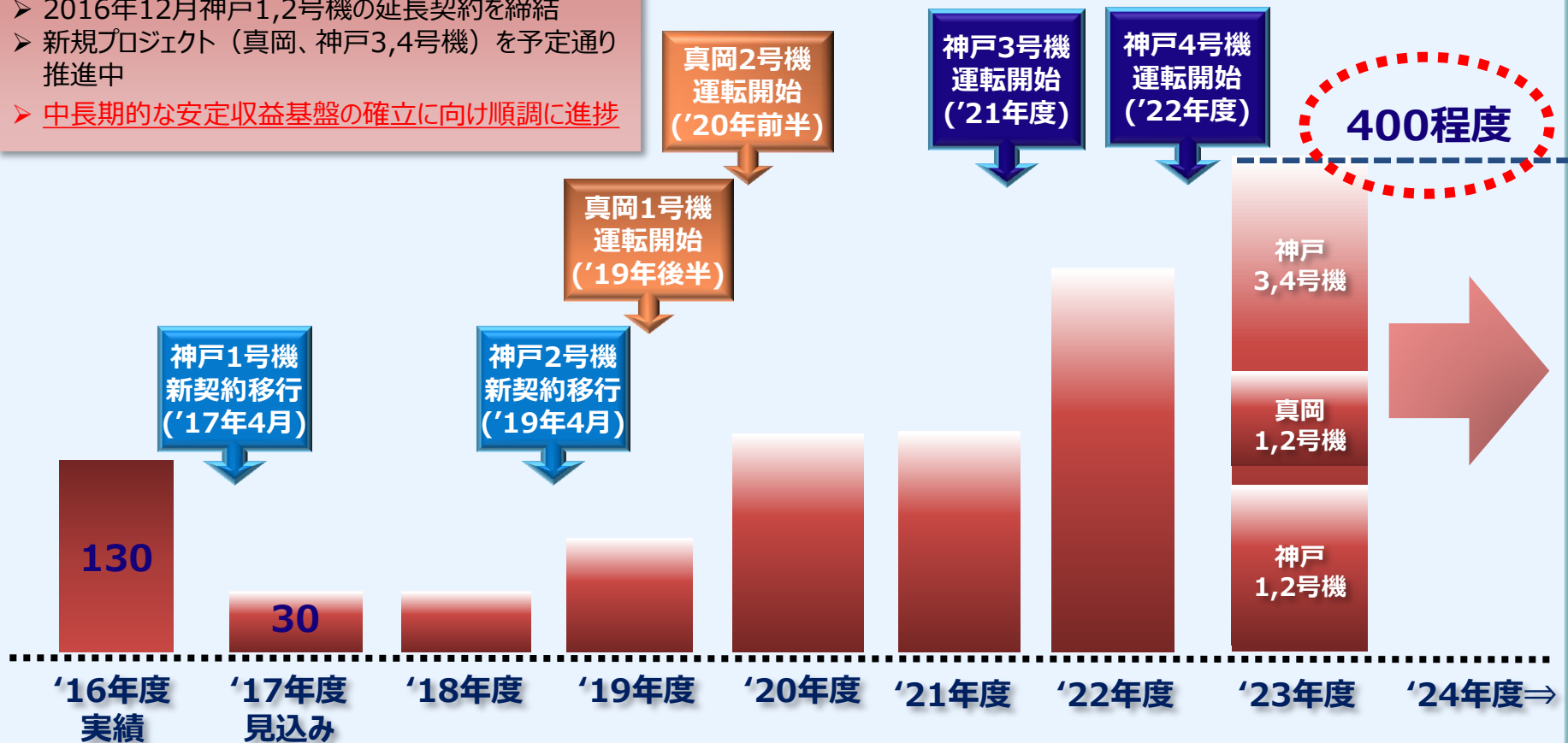


ECO WAY

【電力】 電力供給事業の安定収益化への取組み

(単位:億円)

- 2016年12月神戸1,2号機の延長契約を締結
- 新規プロジェクト (真岡、神戸3,4号機) を予定通り推進中
- 中長期的な安定収益基盤の確立に向け順調に進捗



※2018年度以降は業績イメージ

※各年度業績イメージには△20~30億円程度の本社費を含む。また、新規プロジェクト立上げ迄の間は、先行費用等の一時費用の発生を見込む。



ECOWAY

【素材】 輸送機軽量化への取組み

分野	案件	地域	概要	時期
自動車	特殊鋼・普通鋼線材圧延・販売合弁会社 (Kobelco Millcon Steel Co., LTD)	タイ	海外初の線材圧延拠点 拡大が見込まれる東南アジアの自動車生産需要を捕捉	2015年9月 普通鋼製造開始 2017年5月 特殊鋼製造開始予定
	CHワイヤー（鋼線）の製造・販売合弁会社 (Kobelco CH Wire Mexicana, S.A. de C.V.)	メキシコ	現地自動車部品メーカーへ品質に優れた製品を迅速に納入	2016年1月 稼働開始
	自動車用冷延ハイテン製造・販売会社 (鞍鋼神鋼冷延高張力自動車鋼板有限公司)	中国	中国での環境対応への取組み強化 日・米・欧・中での「薄板ハイテンのグローバル供給体制」整備	2016年2月 稼働開始
	自動車パネル用アルミ板材製造・販売会社 (神鋼汽車鋁材（天津）有限公司)	中国	日系アルミ圧延メーカー初の中国におけるパネル材生産拠点	2016年4月 稼働開始
	自動車向けアルミ押出材製造・販売会社 (Kobelco Aluminum Products & Extrusions Inc.)	米国	米国での燃費規制への対応強化 日・米両極でのアルミ押出・加工品の供給体制確立	2016年8月 建設開始 2017年後半 稼働予定
	高生産性ホットスタンプ用鋼板の量産	-	プレス生産性に優れたホットスタンプ用冷延鋼板を開発、トヨタ自動車（株）プリウス向けのボディ骨格部品を受注、量産。	2016年 量産開始
	自動車ソリューションセンター新設	-	技術開発本部内に「自動車ソリューションセンター」を新設。全社自動車プロジェクト担当役員を新たに配置し、意思決定の迅速化と当社独自のソリューション提案力の強化を図る。	2017年4月 新設
	自動車サスペンション用アルミ鍛造工場生産設備の増強 (Kobelco Aluminum Automotive Products, LLC)	米国	北米のアルミ鍛造サスペンションの更なる需要拡大に対応 日系自動車メーカーのみならず、米国自動車メーカー車種の採用拡大を見込む	2018年秋 順次稼働開始
航空機	エアバス向けチタン大型鍛造品の量産供給開始	-	日本で初めて着陸装置用チタン大型鍛造品の開発・量産に成功	2016年7月 量産供給開始
	GE社向け大型ジェットエンジン用チタン合金鍛造品の認定取得 及び量産供給開始	-	米GE社製造の民間航空機向け大型エンジンに使用されるチタン合金鍛造品（シャフト）サプライヤーとして認定を取得、供給を開始	2016年8月 認定取得 量産供給開始
船舶	船舶用鋳鍛鋼部品における新技術、製品の認証・開発	-	船舶向けに高強度な軽量部材を提供 船舶の燃費改善に貢献	2016年10月 認証・開発
	「船用バイナリー発電システム」海上試験完了	日本	船用エンジンに付随する過給機からの排熱を熱源として発電する船用バイナリー発電システムを旭海運（株）、三浦工業（株）と共同開発。船舶用としては世界初、船舶にける排熱を利用した発電量としては最大規模。	2014年4月 開発開始 2015年9月 陸上試験合格 2016年12月 海上試験合格 2017年3月 日本海事協会認証取得 2019年度 販売開始



ECO WAY

【機械】 エネルギー・インフラ分野への取組み

分野	案件	地域	概要	時期
圧縮機	新型オイルフリー式汎用空気圧縮機の販売開始	—	世界最高クラスのエネルギー効率と低騒音を実現	2016年10月 販売開始
	LNG船向け非汎用スクリュ式圧縮機の受注	—	船用二元燃料焚きエンジン向けに世界初の「スクリュ式」圧縮機を受注	2016年10月 受注 2017年8月 納入予定
	米国向け水素ステーション用All in oneコンパクトパッケージ「HyAC mini-A」の開発・販売開始	米国	米国の定置式水素ステーション向けに高圧水素圧縮機、冷凍機、蓄圧器、ディスプレイをセットにした「HyAC mini-A」の販売を開始。海外水素ステーション向けに水素圧縮機等を販売するのは日本企業では初。	2017年2月 販売開始
	北海道洞爺湖温泉向けバイナリー発電システムの納入	日本	洞爺湖町地熱利用発電設備導入事業向けに、高効率・小型バイナリー発電システム一式を納入	2017年3月 納入
産業機械	等方圧加圧装置世界トップメーカーQuintus Technologies ABの買収	スウェーデン	航空機部品や発電用タービンブレード、半導体関連素材など高機能製品に幅広く適用される等方圧加圧装置（IP装置）のトップメーカーであるQuintus社を買収。産業機械事業の高収益化に向け、IP装置メニューを強化。	2017年4月 買収
建設機械	油圧ショベル新工場 (Kobelco Construction Machinery U.S.A. Inc.)	米国	北米ユーザー向けの生産リードタイム圧縮、市場ニーズへの対応力強化	2016年3月 操業開始
	国内向け超大型クローラークレーンの開発・販売開始 (最大つり上げ能力1,250トン)	—	超大型クローラークレーン需要の高まりに対応した国産最大級クローラークレーンの供給	2016年5月 販売開始
エンジニアリング	放射性廃棄物処理に関する合併会社設立 (コベルコ スタズビック株式会社)	日本	国内原子力発電所の廃炉等の課題に対して安全な放射性廃棄物処理技術・プロセスを提供	2016年4月 合併契約締結
	MIDREX直接還元鉄プラントの新規受注	アルジェリア	世界最大クラスとなる年産能力250万トン 同国産業の発展に貢献	2016年6月 受注 2018年11月 稼働予定
	エネルギー回収型ごみ処理施設運営事業を受注	日本	当社初の流動床式ガス化燃焼炉採用 次世代型焼却炉で施設のコンパクト化、発電量の最大化、環境負荷軽減に貢献	2016年6月 受注 2016年～2019年 設備建設 2019年～2039年 設備運営
	広域ごみ処理施設整備・運営事業を受注	日本	幅広いごみ質に対応し、安全・安定燃焼を実現するストーカ式燃焼炉。低空気比燃焼、高効率発電により、環境負荷軽減に貢献。	2016年12月 受注 2016年～2022年 設備建設 2022年～2042年 設備運営



ECO WAY

【電力】 電力供給事業の安定収益化への取組み

分野	案件	地域	概要	時期
電力	神戸発電所 1,2号機 (株コベルコパワー-神戸)	日本	2002年稼働の微粉炭火力超臨界圧発電設備。現行契約満了にあたり、契約を延長。 発電規模：140万kW（70万kW×2）	2002年4月 1号機操業開始 2004年4月 2号機操業開始 【延長契約期間】 1号機：2017年4月～ 2号機：2019年4月～
	真岡発電所 1,2号機 (株コベルコパワー-真岡)	日本	国内初の本格的な内陸型発電所として国内最高レベルの効率での発電、都市ガス燃料のガスタービン・コンバインドサイクル設備。 発電規模：124.8万kW（62.4万kW×2基）	2016年6月 建設開始 2019年後半 1号機稼働予定 2020年前半 2号機稼働予定
	神戸発電所 3,4号機（仮称）	日本	最新鋭の発電技術である微粉炭火力超々臨界圧発電設備での発電 発電規模：130万kW（65万kW×2基）	2021年度 3号機稼働予定 2022年度 4号機稼働予定



KOBELCOの3つの約束

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します



将来見通しに関する注意事項

- **本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまいう可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。**
- **上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。**
 - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料のアベイラビリティや市況
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化